

## 7 冪和の新公式

### 7・1 ベルヌーイ数による冪和の公式

3乗和までの公式は1世紀までに知られていたようであるが、一般的な $m$ 乗和の公式は17世紀に 関 孝和 と ヤコブ・ベルヌーイ によって発見された。現代の記法で示すと、

$$\sum_{k=1}^n k^m = \frac{1}{m+1} \sum_{r=0}^m (-1)^{\delta(r,1)} {}_{m+1}C_r B_r n^{m+1-r} \quad (1.0)$$

ここで ${}_mC_r$ は二項係数、 $B_r$ はベルヌーイ数と呼ばれる係数である。 $B_r$ の最初の幾つかは

$$B_0 = 1, B_2 = \frac{1}{6}, B_4 = -\frac{1}{30}, B_6 = \frac{1}{42}, B_8 = -\frac{1}{30}, B_{10} = \frac{5}{66}, \dots$$

$$B_1 = -\frac{1}{2}, B_3 = B_5 = B_7 = \dots = 0$$

また、 $\delta(r,s)$ はクロネッカーのデルタ( $r=s$ のとき1、 $r \neq s$ のとき0)である。この $(-1)^{\delta(r,1)}$ により $B_1 = -1/2$ の符号のみが反転される。つまり、それはベルヌーイ数の定義を現代から昔に変えるものである。

例えば $m=4, n=100$ のとき

$$\begin{aligned} \sum_{k=1}^{100} k^4 &= \frac{1}{4+1} \sum_{r=0}^4 (-1)^{\delta(r,1)} {}_{4+1}C_r B_r n^{4+1-r} \\ &= \frac{1}{5} ({}_5C_0 B_0 100^5 - {}_5C_1 B_1 100^4 + {}_5C_2 B_2 100^3 + {}_5C_3 B_3 100^2 + {}_5C_4 B_4 100^1) \\ &= \frac{1}{5} \left( 1 \cdot 1 \cdot 100^5 - 5 \left( -\frac{1}{2} \right) 100^4 + 10 \cdot \frac{1}{6} 100^3 + 10 \cdot 0 \cdot 100^2 + 5 \left( -\frac{1}{30} \right) 100^1 \right) \\ &= 2,050,333,330 \end{aligned}$$

cf.

「04 オイラー・マクローリンの和公式」によると、ヤコブ・ベルヌーイの和公式は次のようであった。

#### 公式 4・3・3 (再掲)

$$\sum_{k=0}^{n-1} k^m = \frac{1}{m+1} \sum_{r=0}^m {}_{m+1}C_r B_r n^{m+1-r} \quad (3.1)$$

これは(1.0)とは異なっているが、 $k=0 \sim n-1$ を $k=1 \sim n$ に変更すれば(3.1)から(1.0)が得られる。(3.1)を2分割すると

$$\sum_{k=0}^{n-1} k^m = \frac{1}{m+1} ({}_{m+1}C_0 B_0 n^{m+1} + {}_{m+1}C_1 B_1 n^m) + \frac{1}{m+1} \sum_{r=2}^m {}_{m+1}C_r B_r n^{m+1-r}$$

両辺に $n^m$ を加えれば、

$$\begin{aligned} \sum_{k=0}^n k^m &= \frac{1}{m+1} \left\{ {}_{m+1}C_0 B_0 n^{m+1} + {}_{m+1}C_1 \left( -\frac{1}{2} \right) n^m \right\} + n^m + \frac{1}{m+1} \sum_{r=2}^m {}_{m+1}C_r B_r n^{m+1-r} \\ &= \frac{1}{m+1} \left\{ {}_{m+1}C_0 B_0 n^{m+1} + {}_{m+1}C_1 \left( -\frac{1}{2} \right) n^m + {}_{m+1}C_1 n^m \right\} + \frac{1}{m+1} \sum_{r=2}^m {}_{m+1}C_r B_r n^{m+1-r} \\ &= \frac{1}{m+1} \left\{ {}_{m+1}C_0 B_0 n^{m+1} - {}_{m+1}C_1 \left( -\frac{1}{2} \right) n^m \right\} + \frac{1}{m+1} \sum_{r=2}^m {}_{m+1}C_r B_r n^{m+1-r} \end{aligned}$$

ここで  $-1 = (-1)^{\delta(1,1)}$ ,  $1 = (-1)^{\delta(r,1)}$   $r \neq 1$  を用いれば

$$\sum_{k=0}^n k^m = \frac{1}{m+1} \left\{ (-1)^{\delta(0,1)} {}_{m+1}C_0 B_0 n^{m+1} + (-1)^{\delta(1,1)} {}_{m+1}C_1 B_1 n^m \right\} \\ + \frac{1}{m+1} \sum_{r=2}^m (-1)^{\delta(r,1)} {}_{m+1}C_r B_r n^{m+1-r}$$

自然数  $m$  について  $0^m = 0$  であるから

$$\sum_{k=0}^n k^m = \sum_{k=1}^n k^m = \frac{1}{m+1} \sum_{r=0}^m (-1)^{\delta(r,1)} {}_{m+1}C_r B_r n^{m+1-r} \quad (1.0)$$

### ファウルハーバーの公式

(1.0) はその右辺を通分すれば分母・分子を全て整数で表すことが出来る。例えば、

$$\sum_{k=1}^{100} k^4 = \frac{1}{5} \left( 1 \cdot 1 \cdot 100^5 - 5 \left( -\frac{1}{2} \right) 100^4 + 10 \cdot \frac{1}{6} 100^3 + 10 \cdot 0 \cdot 100^2 + 5 \left( -\frac{1}{30} \right) 100^1 \right) \\ = \frac{1}{5} \left( \frac{6}{6} 100^5 + \frac{15}{6} 100^4 + \frac{10}{6} 100^3 - \frac{1}{6} 100^1 \right) \\ = \frac{6 \cdot 100^5 + 15 \cdot 100^4 + 10 \cdot 100^3 - 100^1}{30} = 2,050,333,330$$

このようにして  $m = 1 \sim 5$ ,  $n$  を計算すれば次のようになる。

$$\sum_{k=1}^n k^1 = \frac{n^2 + n^1}{2} \\ \sum_{k=1}^n k^2 = \frac{2n^3 + 3n^2 + n^1}{6} \\ \sum_{k=1}^n k^3 = \frac{n^4 + 2n^3 + n^2}{6} \\ \sum_{k=1}^n k^4 = \frac{6n^5 + 15n^4 + 10n^3 - n^1}{30} \\ \sum_{k=1}^n k^5 = \frac{2n^6 + 6n^5 + 5n^4 - n^2}{12}$$

しかし、このような整数ばかりから成る一般公式は得られない。実際、ファウルハーバーにもそれは成し得なかった。

ところが、ベルヌーイ数を用いないならば、整数ばかりの積和で幕和を得る一般公式が存在する。次節以降ではそのような公式を2種類示す。

(1.0) と同様に それらも二項係数を用いるから、先ず、二項係数とその諸性質を簡単に述べる。

### 二項係数

二項係数  ${}_n C_r$  は  $n$  個の異なる要素から順序を無視して  $r$  個の異なる要素を選ぶ組み合わせ数であり、次のように計算される。

$${}_n C_r = \frac{n!}{(n-r)! r!}$$





次に、 $n^3$  及びその階差数列は次のようになる。

$$\begin{array}{l} n^3: \quad 0 \quad 1 \quad 8 \quad 27 \quad 64 \quad 125 \quad 216 \quad \dots \\ d_1: \quad \quad 1 \quad 7 \quad 19 \quad 37 \quad 61 \quad 91 \quad \dots \\ d_2: \quad \quad \quad 6 \quad 12 \quad 18 \quad 24 \quad 30 \quad \dots \\ d_3: \quad \quad \quad \quad 6 \quad 6 \quad 6 \quad 6 \quad \dots \end{array}$$

一方、パスカルの三角形の  ${}_n C_0$  を6倍すれば

$$6 {}_n C_0: \quad 6 \quad 6 \quad 6 \quad 6 \quad \dots$$

両者を比較して

$$\begin{aligned} d_3(n) &= 6 {}_n C_0 \\ d_2(n) &= 6 + 6 \sum_{r=0}^{n-1} r {}_n C_0 = 6 + 6 {}_n C_1 \quad \left( \because \sum_{r=0}^{n-1} r {}_n C_0 = {}_n C_1 \right) \\ d_1(n) &= 1 + \sum_{r=0}^{n-1} (6 + 6 {}_r C_1) \\ &= 1 + 6 \sum_{r=0}^{n-1} 1 + 6 \sum_{r=0}^{n-1} r {}_r C_1 \end{aligned}$$

ここで  $\sum_{r=0}^{n-1} 1 = {}_n C_1$ ,  $\sum_{r=0}^{n-1} r {}_r C_1 = {}_n C_2$  ( ${}_0 C_1 = 0$ ) であるから

$$d_1(n) = 1 + 6 {}_n C_1 + 6 {}_n C_2$$

よって

$$\begin{aligned} n^3 &= 0 + \sum_{r=0}^{n-1} (1 + 6 {}_r C_1 + 6 {}_r C_2) \\ &= \sum_{r=0}^{n-1} 1 + 6 \sum_{r=0}^{n-1} r {}_r C_1 + 6 \sum_{r=0}^{n-1} r {}_r C_2 \end{aligned}$$

さらに

$$\sum_{r=0}^{n-1} 1 = {}_n C_1, \quad \sum_{r=0}^{n-1} r {}_r C_1 = {}_n C_2, \quad \sum_{r=0}^{n-1} r {}_r C_2 = {}_n C_3 \quad ({}_r C_s = 0 \quad r < s)$$

であるから

$$n^3 = 1 {}_n C_1 + 6 {}_n C_2 + 6 {}_n C_3 \tag{3.n}$$

右辺の係数(青とマゼンタ)は  $n^3$  の階差数列の初項に一致していることが分る。

そしてこれらの初項はそれぞれ次式で与えられる。

$$\begin{aligned} d_1: \quad 1 &= 1^3 - 0^3, \quad 7 = 2^3 - 1^3, \quad 19 = 3^3 - 2^3, \quad \dots \\ d_2: \quad 6 &= 2^3 - 2 \cdot 1^3 + 0^3, \quad 12 = 3^3 - 2 \cdot 2^3 + 1^3, \quad \dots \\ d_3: \quad 6 &= 3^3 - 3 \cdot 2^3 + 3 \cdot 1^3 - 0^3, \quad \dots \end{aligned}$$

即ち、(3.n) の  $r$  番目の係数  ${}_3 S_r$  は次のように表せる。

$${}_3 S_r = \sum_{t=0}^r (-1)^{r-t} {}_r C_t t^3$$

以下、帰納法により与式を得る。

例  $3^4$

$$\begin{aligned}
 {}_4S_0 &= \sum_{t=0}^0 (-1)^{0-t} {}_1C_t t^4 = 0, & {}_4S_1 &= \sum_{t=0}^1 (-1)^{1-t} {}_1C_t t^4 = 1 \\
 {}_4S_2 &= \sum_{t=0}^2 (-1)^{2-t} {}_2C_t t^4 = 14, & {}_4S_3 &= \sum_{t=0}^3 (-1)^{3-t} {}_3C_t t^4 = 36 \\
 {}_4S_4 &= \sum_{t=0}^4 (-1)^{4-t} {}_4C_t t^4 = 24
 \end{aligned}$$

より

$$n^4 = 0 {}_n C_0 + 1 {}_n C_1 + 14 {}_n C_2 + 36 {}_n C_3 + 24 {}_n C_4$$

$n=3$ を代入すると

$$3^4 = 0 {}_3 C_0 + 1 {}_3 C_1 + 14 {}_3 C_2 + 36 {}_3 C_3 + 24 {}_3 C_4 = 81$$

### ${}_m S_r$ と第2種スターリング数

これらの係数  ${}_m S_r$  の三角形の最初の数段は次のとおり。

$$\begin{array}{cccccc}
 {}_1S_1 & & & & & 1 \\
 {}_2S_1 & {}_2S_2 & & & & 1 & 2 \\
 {}_3S_1 & {}_3S_2 & {}_3S_3 & & & 1 & 6 & 6 \\
 {}_4S_1 & {}_4S_2 & {}_4S_3 & {}_4S_4 & = & 1 & 14 & 36 & 24 \\
 {}_5S_1 & {}_5S_2 & {}_5S_3 & {}_5S_4 & {}_5S_5 & 1 & 30 & 150 & 240 & 120 \\
 {}_6S_1 & {}_6S_2 & {}_6S_3 & {}_6S_4 & {}_6S_5 & {}_6S_6 & 1 & 62 & 540 & 1560 & 1800 & 720 \\
 {}_7S_1 & {}_7S_2 & {}_7S_3 & {}_7S_4 & {}_7S_5 & {}_7S_6 & {}_7S_7 & 1 & 126 & 1806 & 8400 & 16800 & 15120 & 5040 \\
 & & & & & & & \vdots & & & & & & & \vdots
 \end{array}$$

On-Line Encyclopedia of Integer Sequences によるとこの係数  ${}_m S_r$  は既出 (A019538) である。そしてこの係数は第2種スターリング数  ${}_m s_r$  (小文字) と次の関係がある。

$${}_m S_r = r! {}_m s_r$$

${}_m S_r$  はスターリング数の類であり、それ故 公式 7・2・1 はスターリング数による公式と言える。

### ${}_m S_r$ の逐次計算法

${}_m S_r$  以下のような逐次計算法より手計算できる。即ち、第2種スターリング数の漸化式は  ${}_m s_r = m {}_{m-1} s_{r-1} + r {}_{m-1} s_r$  であるから、先ず、これにより小文字  ${}_m s_r$  の三角形を手計算する。

$$\begin{array}{cccccc}
 {}_1s_1 & & & & & 1 \\
 {}_2s_1 & {}_2s_2 & & & & 1 & 1 \\
 {}_3s_1 & {}_3s_2 & {}_3s_3 & & & 1 & 3 & 1 \\
 {}_4s_1 & {}_4s_2 & {}_4s_3 & {}_4s_4 & = & 1 & 7 & 6 & 1 \\
 {}_5s_1 & {}_5s_2 & {}_5s_3 & {}_5s_4 & {}_5s_5 & 1 & 15 & 25 & 10 & 1 \\
 {}_6s_1 & {}_6s_2 & {}_6s_3 & {}_6s_4 & {}_6s_5 & {}_6s_6 & 1 & 31 & 90 & 65 & 15 & 1 \\
 & & & & & & & \vdots & & & & & & \vdots
 \end{array}$$

例えば、

$$\begin{aligned}
 {}_4s_2 &= {}_3s_1 + 2{}_3s_2 = 1 + 2 \cdot 3 = 7, & {}_4s_3 &= {}_3s_2 + 3{}_3s_3 = 3 + 3 \cdot 1 = 6 \\
 {}_5s_2 &= {}_4s_1 + 2{}_4s_2 = 1 + 2 \cdot 7 = 15, & {}_5s_3 &= {}_4s_2 + 3{}_4s_3 = 7 + 3 \cdot 6 = 25, & {}_5s_4 &= {}_4s_3 + 4{}_4s_4 = 6 + 4 \cdot 1 = 10 \\
 {}_6s_2 &= {}_5s_1 + 2{}_5s_2 = 1 + 2 \cdot 15 = 31, & {}_6s_3 &= {}_5s_2 + 3{}_5s_3 = 15 + 3 \cdot 25 = 90, & {}_6s_4 &= 65, & {}_6s_5 &= 15, \dots \\
 & \vdots & & & & & & 
 \end{aligned}$$

次に、右上の三角形の第  $r$  斜列に  $r!$  を乗じる。即ち、

$$\begin{aligned}
 (1, 3, 7, 15, 31, \dots) \cdot 2! &= 2, 6, 14, 30, 62, \dots \\
 (1, 6, 25, 90, 301, \dots) \cdot 3! &= 6, 36, 150, 540, \dots \\
 (1, 10, 65, 350, \dots) \cdot 4! &= 24, 240, 1560, 8400, \dots \\
 & \vdots & & \vdots
 \end{aligned}$$

すると次のようになる。これが大文字  ${}_mS_r$  の三角形である、

$$\begin{array}{cccccc}
 {}_1S_1 & & & & & 1 \\
 {}_2S_1 & {}_2S_2 & & & & 1 & 2 \\
 {}_3S_1 & {}_3S_2 & {}_3S_3 & & & 1 & 6 & 6 \\
 {}_4S_1 & {}_4S_2 & {}_4S_3 & {}_4S_4 & = & 1 & 14 & 36 & 24 \\
 {}_5S_1 & {}_5S_2 & {}_5S_3 & {}_5S_4 & {}_5S_5 & 1 & 30 & 150 & 240 & 120 \\
 {}_6S_1 & {}_6S_2 & {}_6S_3 & {}_6S_4 & {}_6S_5 & {}_6S_6 & 1 & 62 & 540 & 1560 & 1800 & 720 \\
 & & & & & & \vdots & & & & & \vdots
 \end{array}$$

公式 7・2・1 の冪を 1 から  $n$  まで加算すれば次なる公式が得られる。

### 公式 7・2・2 (スターリング数による冪和の公式)

$m, n$  を自然数とするととき、次式が成立する。

$$\sum_{k=1}^n k^m = \sum_{r=1}^m {}_mS_r {}_{n+1}C_{r+1}$$

ここで  ${}_mS_r$  は第2種スターリング数の類であり、次式で与えられる。

$${}_mS_r = \sum_{s=0}^r (-1)^{r-s} {}_rC_s s^m \quad r=0, 1, 2, \dots, m$$

### 証明

公式 7・2・1 より

$$n^m = \sum_{r=0}^m {}_mS_r {}_nC_r$$

$n$  を  $k$  に置換すれば

$$k^m = \sum_{r=0}^m {}_mS_r {}_kC_r$$

$k$  を 0 から  $n$  まで加算すれば

$$\sum_{k=0}^n k^m = \sum_{k=0}^n \sum_{r=0}^m {}_mS_r {}_kC_r = \sum_{r=0}^m {}_mS_r \sum_{k=0}^n {}_kC_r \tag{2.w}$$

右辺の2番目の  $\Sigma$  を展開すると

$$\sum_{k=0}^n k C_r = {}_0C_r + {}_1C_r + {}_2C_r + \dots + {}_nC_r \quad n \geq r$$

ところが  $k < r$  のとき  ${}_kC_r = 0$  であるから、 $k \geq r$  とせよ。するとこの  $\Sigma$  は次のように書き換えることができる。

$$\sum_{k=0}^n k C_r = \sum_{k=r}^n k C_r = {}_rC_r + {}_{r+1}C_r + {}_{r+2}C_r + \dots + {}_nC_r \quad n \geq r$$

ここで二項係数の性質 iii

$${}_{r-1}C_{r-1} + {}_rC_{r-1} + {}_{r+1}C_{r-1} + \dots + {}_{n-1}C_{r-1} = {}_nC_r$$

により、この右辺は次のようになる。

$${}_rC_r + {}_{r+1}C_r + {}_{r+2}C_r + \dots + {}_nC_r = {}_{n+1}C_{r+1} \quad n \geq r$$

i.e.

$$\sum_{k=0}^n k C_r = {}_{n+1}C_{r+1} \quad n \geq r$$

これを (2.w) の右辺に代入すると

$$\sum_{k=0}^n k^m = \sum_{r=0}^m {}_mS_r {}_{n+1}C_{r+1}$$

左辺において  $0^m = 0$ 、右辺において  ${}_mS_0 = 0$  であるから、 $k=0, r=0$  は省くことができ、

$$\sum_{k=1}^n k^m = \sum_{r=1}^m {}_mS_r {}_{n+1}C_{r+1} \quad \text{Q.E.D.}$$

例  $\sum_{k=1}^{100} k^5$

${}_5S_1, {}_5S_2, {}_5S_3, {}_5S_4, {}_5S_5 = 1, 30, 150, 240, 120$  であるから

$$\begin{aligned} & {}_{101}C_2 + 30 {}_{101}C_3 + 150 {}_{101}C_4 + 240 {}_{101}C_5 + 120 {}_{101}C_6 = 171,708,332,500 \\ & \frac{2 \cdot 100^6 + 6 \cdot 100^5 + 5 \cdot 100^4 - 100^2}{12} = 171,708,332,500 \end{aligned}$$

**Note**

この公式 7・2・2 は既知である。



### 7・3 オイリアン数による冪和の新公式

#### 公式 7・3・1 (オイリアン数による累乗の表示)

$m, n$  を自然数とすると、次式が成立する。

$$n^m = \sum_{r=0}^{m-1} {}_m D_{r+1} n^r C_m$$

ここで  ${}_m D_r$   $r=1, 2, \dots, m$  はオイリアン数であり、次式で与えられる。

$${}_m D_r = \sum_{s=0}^{r-1} (-1)^s {}_{m+1} C_s (r-s)^m \quad m=1, 2, 3, \dots$$

#### 証明

公式 7・2・1 より

$$n^2 = {}_n C_1 + 2 {}_n C_2$$

$$= {}_n C_1 + {}_n C_2 + {}_n C_2$$

$$= {}_{n+1} C_2 + {}_n C_2$$

$$n^3 = {}_n C_1 + 6 {}_n C_2 + 6 {}_n C_3$$

$$= ({}_n C_1 + {}_n C_2) + 5 {}_n C_2 + 6 {}_n C_3$$

$$= {}_{n+1} C_2 + 5 {}_n C_2 + 6 {}_n C_3$$

$$= {}_{n+1} C_2 + 5({}_n C_2 + {}_n C_3) + {}_n C_3$$

$$= {}_{n+1} C_2 + 5 {}_{n+1} C_3 + {}_n C_3$$

$$= ({}_{n+1} C_2 + {}_{n+1} C_3) + 4 {}_{n+1} C_3 + {}_n C_3$$

$$= {}_{n+2} C_3 + 4 {}_{n+1} C_3 + {}_n C_3$$

$$n^4 = {}_n C_1 + 14 {}_n C_2 + 36 {}_n C_3 + 24 {}_n C_4$$

$$= ({}_n C_1 + {}_n C_2) + 13 {}_n C_2 + 36 {}_n C_3 + 24 {}_n C_4$$

$$= {}_{n+1} C_2 + 13 {}_n C_2 + 36 {}_n C_3 + 24 {}_n C_4$$

$$= {}_{n+1} C_2 + 13({}_n C_2 + {}_n C_3) + 23 {}_n C_3 + 24 {}_n C_4$$

$$= {}_{n+1} C_2 + 13 {}_{n+1} C_3 + 23 {}_n C_3 + 24 {}_n C_4$$

$$= ({}_{n+1} C_2 + {}_{n+1} C_3) + 12 {}_{n+1} C_3 + 23({}_n C_3 + {}_n C_4) + {}_n C_4$$

$$= {}_{n+2} C_3 + 12 {}_{n+1} C_3 + 23 {}_{n+1} C_4 + {}_n C_4$$

$$= {}_{n+2} C_3 + 12({}_{n+1} C_3 + {}_{n+1} C_4) + 11 {}_{n+1} C_4 + {}_n C_4$$

$$= {}_{n+2} C_3 + 12 {}_{n+2} C_4 + 11 {}_{n+1} C_4 + {}_n C_4$$

$$= ({}_{n+2} C_3 + {}_{n+2} C_4) + 11 {}_{n+2} C_4 + 11 {}_{n+1} C_4 + {}_n C_4$$

$$= {}_{n+3} C_4 + 11 {}_{n+2} C_4 + 11 {}_{n+1} C_4 + {}_n C_4$$

$$n^5 = {}_n C_1 + 30 {}_n C_2 + 150 {}_n C_3 + 240 {}_n C_4 + 120 {}_n C_5$$

$$= ({}_n C_1 + {}_n C_2) + 29 {}_n C_2 + 150 {}_n C_3 + 240 {}_n C_4 + 120 {}_n C_5$$

$$= {}_{n+1} C_2 + 29 {}_n C_2 + 150 {}_n C_3 + 240 {}_n C_4 + 120 {}_n C_5$$

$$= {}_{n+1} C_2 + 29({}_n C_2 + {}_n C_3) + 121 {}_n C_3 + 240 {}_n C_4 + 120 {}_n C_5$$

$$= {}_{n+1} C_2 + 29 {}_{n+1} C_3 + 121 {}_n C_3 + 240 {}_n C_4 + 120 {}_n C_5$$

$$\begin{aligned}
&= ({}_{n+1}C_2 + {}_{n+1}C_3) + 28 {}_{n+1}C_3 + 121({}_nC_3 + {}_nC_4) + 119 {}_nC_4 + 120 {}_nC_5 \\
&= {}_{n+2}C_3 + 28 {}_{n+1}C_3 + 121 {}_{n+1}C_4 + 119 {}_nC_4 + 120 {}_nC_5 \\
&= {}_{n+2}C_3 + 28({}_{n+1}C_3 + {}_{n+1}C_4) + 93 {}_{n+1}C_4 + 119({}_nC_4 + {}_nC_5) + {}_nC_5 \\
&= {}_{n+2}C_3 + 28 {}_{n+2}C_4 + 93 {}_{n+1}C_4 + 119 {}_{n+1}C_5 + {}_nC_5 \\
&= ({}_{n+2}C_3 + {}_{n+2}C_4) + 27 {}_{n+2}C_4 + 93({}_{n+1}C_4 + {}_{n+1}C_5) + 26 {}_{n+1}C_5 + {}_nC_5 \\
&= {}_{n+3}C_4 + 27 {}_{n+2}C_4 + 93 {}_{n+2}C_5 + 26 {}_{n+1}C_5 + {}_nC_5 \\
&= {}_{n+3}C_4 + 27({}_{n+2}C_4 + {}_{n+2}C_5) + 66 {}_{n+2}C_5 + 26 {}_{n+1}C_5 + {}_nC_5 \\
&= {}_{n+3}C_4 + 27 {}_{n+3}C_5 + 66 {}_{n+2}C_5 + 26 {}_{n+1}C_5 + {}_nC_5 \\
&= ({}_{n+3}C_4 + {}_{n+3}C_5) + 26 {}_{n+3}C_5 + 66 {}_{n+2}C_5 + 26 {}_{n+1}C_5 + {}_nC_5 \\
&= {}_{n+4}C_5 + 26 {}_{n+3}C_5 + 66 {}_{n+2}C_5 + 26 {}_{n+1}C_5 + {}_nC_5 \\
&\vdots
\end{aligned}$$

これらの係数は「01ゼータ母関数」で述べた定ベキ化係数 (Eulerian number) である。  
よって帰納法により与式を得る。

例  $7^3, 3^4$

$$\begin{aligned}
7^3 &= {}_7C_3 + 4{}_8C_3 + {}_9C_3 &= 35 + 4 \cdot 56 + 84 &= 343 \\
3^4 &= {}_3C_4 + 11{}_4C_4 + 11{}_5C_4 + {}_6C_4 &= 0 + 11 \cdot 1 + 11 \cdot 5 + 15 &= 81
\end{aligned}$$

### オイリアン数の三角形

オイリアン数の三角形の最初の数段を示すと次のようになる。これらは自然数であり、左右対称である。

$$\begin{array}{cccccccc}
& & & & & & & 1 \\
& & & & & & & & 1 \\
& & & & & & & 1 & 1 \\
& & & & & & & 1 & 4 & 1 \\
& & & & & & & 1 & 11 & 11 & 1 \\
& & & & & & & 1 & 26 & 66 & 26 & 1 \\
& & & & & & & 1 & 57 & 302 & 302 & 57 & 1 \\
& & & & & & & 1 & 120 & 1191 & 2416 & 1191 & 120 & 1 \\
& & & & & & & \vdots & & & & \vdots & & 
\end{array}$$

### オイリアン数の逐次計算法

オイリアン数は次のような逐次計算法より簡単に手計算できる。  
 先ず、2段目の係数を 1 1 とし、3段目以下の両端の係数も全て 1 とせよ。  
 次にピラミッドの2段目に合計が4となる2数の順列 (2, 2) を乗加算して3段目の係数とする。  
 次にピラミッドの3段目に合計が5となる2数の順列 (3, 2), (2, 3) を乗加算して4段目の係数とする。  
 以下、同じ手順を次図に示すように繰り返す。

2	1 1 2, 2	算 式
3	1 4 1 3, 2 2, 3	4 = 1×2 + 1×2
4	1 11 11 1 4, 2 3, 3 2, 4	11 = 1×3 + 4×2
5	1 26 66 26 1 5, 2 4, 3 3, 4 2, 5	26 = 1×4 + 11×2, 66 = 11×3 + 11×3
6	1 57 302 302 57 1 ⋮	57 = 1×5 + 26×2, 302 = 26×4 + 66×3 ⋮

公式 7・3・1 の冪を 1 から  $n$  まで加算すれば次なる公式が得られる。

**公式 7・3・2 (オイリアン数による冪和の新公式)**

$m, n$  を自然数とすると、次式が成立する。

$$\sum_{k=1}^n k^m = \sum_{r=1}^m {}_m D_{r n+r} C_{m+1}$$

ここで  ${}_m D_r$   $r=1, 2, \dots, m$  はオイリアン数であり、次式で与えられる。

$${}_m D_r = \sum_{s=0}^{r-1} (-1)^s {}_{m+1} C_s (r-s)^m \quad m=1, 2, 3, \dots$$

**証明**

公式 7・3・1 より

$$n^m = \sum_{r=0}^{m-1} {}_m D_{r+1 n+r} C_m$$

$n$  を  $k$  に置換すれば

$$k^m = \sum_{r=0}^{m-1} {}_m D_{r+1 k+r} C_m$$

$r$  の開始値を 0 から 1 に変更すれば

$$k^m = \sum_{r=1}^m {}_m D_{r k+r-1} C_m$$

$k$  を 1 から  $n$  まで加算すれば

$$\sum_{k=1}^n k^m = \sum_{k=1}^n \sum_{r=1}^m {}_m D_{r k+r-1} C_m = \sum_{r=1}^m {}_m D_r \sum_{k=1}^n k^{-1+r} C_m \tag{3.w}$$

右辺の2番目の  $\Sigma$  を展開すると

$$\sum_{k=1}^n k^{-1+r} C_m = {}_{1-1+r} C_m + {}_{2-1+r} C_m + {}_{3-1+r} C_m + \dots + {}_{n-1+r} C_m \quad r \leq m$$

$k-1+r < m$  のとき  $k^{-1+r} C_m = 0$  であるから、 $k-1+r \geq m$  *i.e.*  $k \geq 1+m-r$  とせよ。

するとこの  $\Sigma$  は次のように書き換えることができる。

$$\sum_{k=1}^n k^{-1+r} C_m = \sum_{k=1+m-r}^n k^{-1+r} C_m = {}_m C_m + {}_{m+1} C_m + {}_{m+3} C_m + \dots + {}_{n-1+r} C_m \quad r \leq m$$

ここで二項係数の性質 iii

$${}_{r-1}C_{r-1} + {}_rC_{r-1} + {}_{r+1}C_{r-1} + \dots + {}_{n-1}C_{r-1} = {}_nC_r$$

により、この右辺は次のようになる。

$${}_mC_m + {}_{m+1}C_m + {}_{m+3}C_m + \dots + {}_{n-1+r}C_m = {}_{n+r}C_{m+1} \quad r \leq m$$

i.e.

$$\sum_{k=1}^n k^{-1+r}C_m = {}_{n+r}C_{m+1} \quad r \leq m$$

これを (3.w) の右辺に代入すると

$$\sum_{k=1}^n k^m = \sum_{r=1}^m {}_mD_r {}_{n+r}C_{m+1} \quad \text{Q.E.D.}$$

例  $\sum_{k=1}^{100} k^5$

${}_5D_1, {}_5D_2, {}_5D_3, {}_5D_4, {}_5D_5 = 1, 26, 66, 26, 1$  であるから

$$\begin{aligned} {}_{101}C_6 + 26{}_{102}C_6 + 66{}_{103}C_6 + 26{}_{104}C_6 + {}_{105}C_6 &= 171,708,332,500 \\ \frac{2 \cdot 100^6 + 6 \cdot 100^5 + 5 \cdot 100^4 - 100^2}{12} &= 171,708,332,500 \end{aligned}$$

cf.

本例と前節の例を比べると面白い。

#### 7・4 $(ak+b)^m$ の和の公式

本節では次のような冪和を求める。式中  $a, b$  は実数で  $m, n$  は自然数である。

$$S_{m,n} = (1a+b)^m + (2a+b)^m + (3a+b)^m + \cdots + (na+b)^m$$

##### 公式 7・4・1

$a, b$  を実数とし  $m, n$  を自然数とすると、次式が成立する。

$$\sum_{k=1}^n (ak+b)^m = b^m {}_n C_1 + \sum_{r=1}^m {}_m C_r a^r b^{m-r} \sum_{s=1}^r {}_r D_s {}_{n+s} C_{r+1}$$

ここで  ${}_r D_s$   $s=1, 2, \dots, r$  はオイリアン数であり、次式で与えられる。

$${}_r D_s = \sum_{t=0}^{s-1} (-1)^t {}_{r+1} C_t (s-t)^r \quad r=1, 2, \dots, m$$

証明

$$(ak+b)^m = \sum_{r=0}^m {}_m C_r (ak)^r b^{m-r} = \sum_{r=0}^m {}_m C_r k^r a^r b^{m-r}$$

であるから

$$\begin{aligned} \sum_{k=1}^n (ak+b)^m &= \sum_{k=1}^n \sum_{r=0}^m {}_m C_r k^r a^r b^{m-r} = \sum_{r=0}^m {}_m C_r a^r b^{m-r} \sum_{k=1}^n k^r \\ &= {}_m C_0 a^0 b^m \sum_{k=1}^n k^0 + \sum_{r=1}^m {}_m C_r a^r b^{m-r} \sum_{k=1}^n k^r \end{aligned}$$

ここで  ${}_m C_0 a^0 = 1$ ,  $\sum_{k=1}^n k^0 = {}_n C_1$  であるから

$$\sum_{k=1}^n (ak+b)^m = b^m {}_n C_1 + \sum_{r=1}^m {}_m C_r a^r b^{m-r} \sum_{k=1}^n k^r$$

前節 公式 7・3・2 により

$$\sum_{k=1}^n k^r = \sum_{s=1}^r {}_r D_s {}_{n+s} C_{r+1}$$

であったから、これを右辺に代入すれば

$$\sum_{k=1}^n (ak+b)^m = b^m {}_n C_1 + \sum_{r=1}^m {}_m C_r a^r b^{m-r} \sum_{s=1}^r {}_r D_s {}_{n+s} C_{r+1} \quad \text{Q.E.D.}$$

これは半二重級数でややこしそうに見えるが、展開すれば意外と判りやすい。例えば、 $m=1, \sim, 5$  について書き下せば次のようである。 $a, b$  の係数はパスカルの三角形の  $m$  段目であり、 ${}_{n+s} C_{r+1}$  の係数はオイリアンの三角形の上部  $m$  段である。

$$\begin{aligned} \sum_{k=1}^n (ak+b)^1 &= b^1 {}_n C_1 + a^1 b^0 {}_{n+1} C_2 \\ \sum_{k=1}^n (ak+b)^2 &= b^2 {}_n C_1 + 2a^1 b^1 {}_{n+1} C_2 \\ &\quad + a^2 b^0 ({}_{n+1} C_3 + {}_{n+2} C_3) \\ \sum_{k=1}^n (ak+b)^3 &= b^3 {}_n C_1 + 3a^1 b^2 {}_{n+1} C_2 \\ &\quad + 3a^2 b^1 ({}_{n+1} C_3 + {}_{n+2} C_3) \\ &\quad + a^3 b^0 ({}_{n+1} C_4 + 4 {}_{n+2} C_4 + {}_{n+3} C_4) \end{aligned}$$

$$\begin{aligned}\sum_{k=1}^n (ak+b)^4 &= b^4 {}_n C_1 + 4a^1 b^3 {}_{n+1} C_2 \\ &\quad + 6a^2 b^2 ({}_{n+1} C_3 + {}_{n+2} C_3) \\ &\quad + 4a^3 b^1 ({}_{n+1} C_4 + 4 {}_{n+2} C_4 + {}_{n+3} C_4) \\ &\quad + a^4 b^0 ({}_{n+1} C_5 + 11 {}_{n+2} C_5 + 11 {}_{n+3} C_5 + {}_{n+4} C_5)\end{aligned}$$

$$\begin{aligned}\sum_{k=1}^n (ak+b)^5 &= b^5 {}_n C_1 + 5a^1 b^4 {}_{n+1} C_2 \\ &\quad + 10a^2 b^3 ({}_{n+1} C_3 + {}_{n+2} C_3) \\ &\quad + 10a^3 b^2 ({}_{n+1} C_4 + 4 {}_{n+2} C_4 + {}_{n+3} C_4) \\ &\quad + 5a^4 b^1 ({}_{n+1} C_5 + 11 {}_{n+2} C_5 + 11 {}_{n+3} C_5 + {}_{n+4} C_5) \\ &\quad + a^5 b^0 ({}_{n+1} C_6 + 26 {}_{n+2} C_6 + 66 {}_{n+3} C_6 + 26 {}_{n+4} C_6 + {}_{n+5} C_6)\end{aligned}$$

この公式の良いところは、 $a^r b^{m-r}$  以外の計算が整数で行われることである。それにより、整数部分は集約されてより簡明な結果になる。以下、2例を示す。

例1

$$\begin{aligned}\sum_{k=1}^{50} (\pi k - e)^4 &= e^4 {}_{50} C_1 - 4\pi^1 e^3 {}_{51} C_2 \\ &\quad + 6\pi^2 e^2 ({}_{51} C_3 + {}_{52} C_3) \\ &\quad - 4\pi^3 e^1 ({}_{51} C_4 + 4 {}_{52} C_4 + {}_{53} C_4) \\ &\quad + \pi^4 e^0 ({}_{51} C_5 + 11 {}_{52} C_5 + 11 {}_{53} C_5 + {}_{54} C_5) \\ &= 50e^4 - 4 \cdot 1275\pi^1 e^3 \\ &\quad + 6(20825 + 22100)\pi^2 e^2 \\ &\quad - 4(249900 + 4 \cdot 270725 + 292825)\pi^3 e^1 \\ &\quad + (2349060 + 11 \cdot 2598960 + 11 \cdot 2869685 + 3162510)\pi^4 e^0\end{aligned}$$

i.e.

$$\sum_{k=1}^{50} (\pi k - e)^4 = 50e^4 - 5100\pi e^3 + 257550\pi^2 e^2 - 6502500\pi^3 e + 65666665\pi^4$$

例2

$$\begin{aligned}\sum_{k=1}^{100} (\sqrt{2}k + \sqrt{3})^3 &= (\sqrt{3})^3 {}_{100} C_1 + 3(\sqrt{2})^1 (\sqrt{3})^2 {}_{101} C_2 \\ &\quad + 3(\sqrt{2})^2 (\sqrt{3})^1 ({}_{101} C_3 + {}_{102} C_3) \\ &\quad + (\sqrt{2})^3 (\sqrt{3})^0 ({}_{101} C_4 + 4 {}_{102} C_4 + {}_{103} C_4) \\ &= 100 \cdot 3\sqrt{3} + 5050 \cdot 9\sqrt{2} \\ &\quad + (166650 + 171700) \cdot 6\sqrt{3} \\ &\quad + (4082925 + 4 \times 4249575 + 4421275) \cdot 2\sqrt{2}\end{aligned}$$

i.e.

$$\sum_{k=1}^{100} (\sqrt{2}k + \sqrt{3})^3 = 51050450\sqrt{2} + 2030400\sqrt{3}$$

## 自画自賛

この公式は 視覚的に美しい。

2011.12.22

2015.11.14 第5節追加

2024.11.03 Renewed

河野 和  
広島市

宇宙人の数学